

受益者の皆様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「野村エマージング債券投信（米ドルコース）毎月分配型」は、第69期から第74期の決算を行いました。

当ファンドは外国投資信託「エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）」を通じて、米ドル建のエマージング債券を主要投資対象として、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、約款において運用報告書（全体版）を電子交付することが定められています。運用報告書（全体版）については下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

<閲覧方法>

右記URL⇒ファンド情報⇒当ファンド名を選択⇒各種資料のダウンロード⇒「運用報告書（全体版）」を選択

交付運用報告書

野村エマージング債券投信 （米ドルコース） 毎月分配型

商品分類（追加型投信／海外／債券）

第13作成期

第69期（2019年12月10日） 第72期（2020年3月10日）

第70期（2020年1月10日） 第73期（2020年4月10日）

第71期（2020年2月10日） 第74期（2020年5月11日）

作成対象期間：2019年11月12日～2020年5月11日

第74期末（2020年5月11日）	
基準価額	7,839円
純資産総額	1,281百万円
第69期～第74期	
騰落率	△10.1%
分配金合計	300円

（注）騰落率は収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

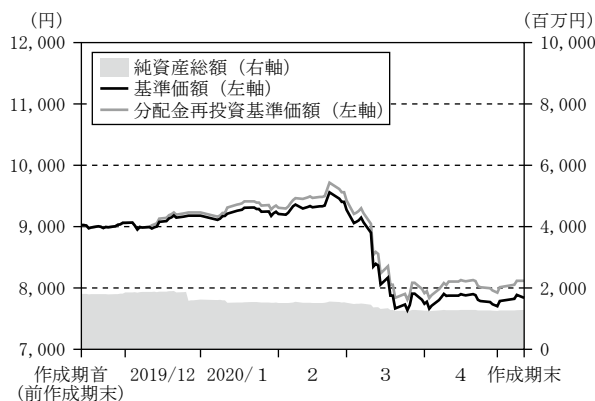
投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<https://www.tdasset.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移



第69期首：9,027円

第74期末：7,839円（既払分配金300円）

騰落率：△10.1%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2019年11月11日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

基準価額の変動要因

主に外国投信「エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）」へ投資した結果、債券運用によるリターンと米ドルが対円で下落したことがマイナスに寄与し、当ファンドの基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）	△10.2%
T&Dマネープールマザーファンド	△ 0.0

1 万口当たりの費用明細

項目	第69期～第74期		項目の概要
	2019/11/12～2020/ 5 /11		
	金額	比率	
平均基準価額	8,694円		作成期間の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	42円 (17) (24) (1)	0.481% (0.191) (0.273) (0.016)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内での ファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用 (監査費用) (その他)	1 (1) (0)	0.008 (0.008) (0.000)	(b) その他費用＝作成期間のその他費用／作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託に係る手数料
合計	43	0.489	

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

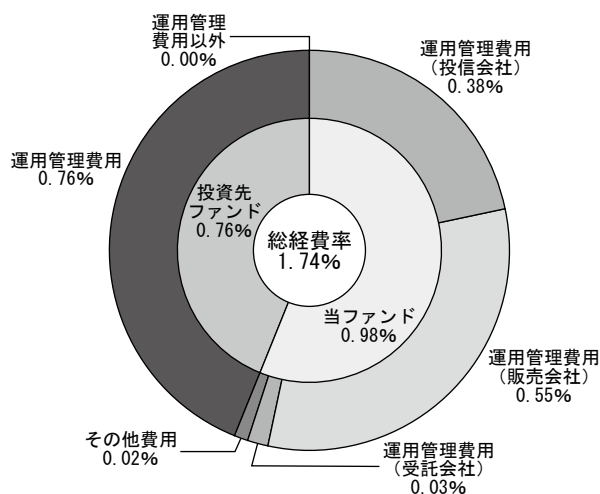
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は、1.74%です。



総経費率（①＋②＋③）	1.74%
①当ファンドの費用の比率	0.98%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.76%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

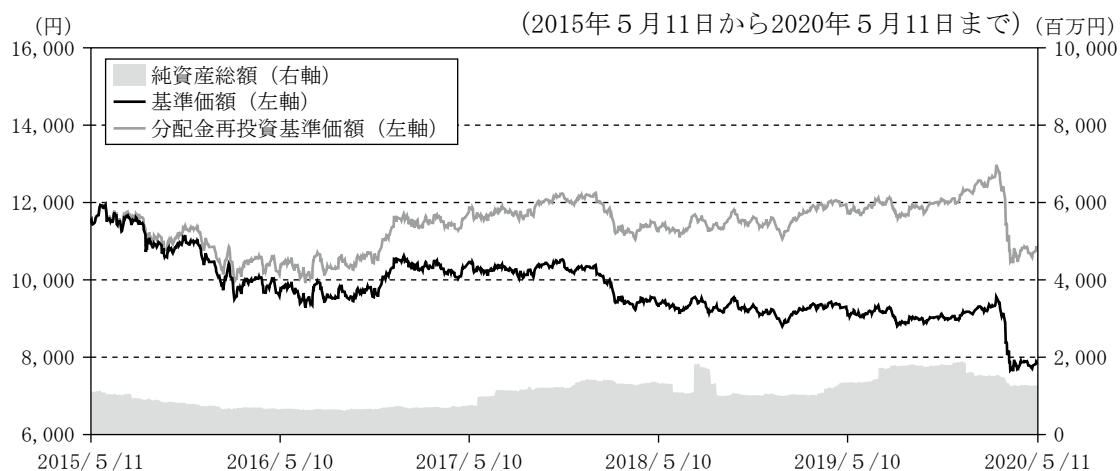
(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）です。

(注) ①の費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首（2015年5月11日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年5月11日 期初	2016年5月10日 決算日	2017年5月10日 決算日	2018年5月10日 決算日	2019年5月10日 決算日	2020年5月11日 決算日
基準価額（分配前）（円）	11,526	9,690	10,463	9,305	9,086	7,839
期間分配金合計（税込み）（円）	—	650	650	650	600	600
分配金再投資基準価額の騰落率（％）	—	△ 10.6	15.2	△ 5.1	4.2	△ 7.6
純資産総額（百万円）	1,119	657	752	1,339	1,347	1,281

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること・指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■ エマージング債券市場

当作成期の米ドル建てエマージング債券市場（参照指標：JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド）は下落し（米ドルベース、以下同じ）、米国債に対するスプレッド（利回り格差）は拡大しました。また、現地通貨建てエマージング債券市場も下落しました。米ドル建てエマージング債券市場は、米中通商協議における第一段階合意や複数の新興国の利下げなどを受けて投資家のリスク選好姿勢が強まり、2020年2月中旬まで概ね堅調に推移しました。しかし、それ以降は新型コロナウイルスの感染拡大で世界経済の先行きへの懸念が高まるなかで急落する展開となりました。エマージング通貨は、ブラジルやメキシコをはじめ、全般的に対米ドルで下落しました。

■ 為替市場

米ドルは作成期初比で円に対して下落しました。作成期初から2019年12月にかけては、米経済指標の悪化などを受けて円高米ドル安が進む局面もありましたが、米中通商協議の進展期待や英国の合意なきEU（欧州連合）離脱を巡る懸念後退を受けて米ドル高が進むなど、一進一退の動きとなりました。2020年1月中旬にかけては、中東情勢の緊迫化を背景に米ドルは上下に振れる局面がありましたが、1月下旬には、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念が高まったことから、米ドルは対円で下落しました。2月は、堅調な米経済指標や中国での新型コロナウイルス感染拡大ペースの鈍化などを好感して米ドルは対円で堅調に推移しましたが、月末にかけては、欧州など中国国外での感染拡大が懸念され、再び下落に転じました。3月には、米国の緊急利下げや原油価格急落を受けて市場全体でリスク回避的な動きが強まるなか、米ドルは対円で大きく下落しましたが、金融市場の混乱により米ドル需給が逼迫したことを受けて米ドルが全面高に転じるなど、値動きの荒い展開となりました。4月から作成期末にかけては、米ドル需要の落ち着きや、世界経済回復に対する先行き不透明感を背景に、米ドルは対円で上値の重い動きとなりました。



■ 国内短期金融市場

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、作成期首の $\Delta 0.21\%$ から作成期末は $\Delta 0.14\%$ となりました。作成期中においては、需給悪化懸念や日銀の国庫短期証券買入オペ動向を巡る不透明感などが金利上昇要因となり、海外勢による需要や担保需要などが金利低下要因となりました。

当該投資信託のポートフォリオ

■ 当ファンド

「エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）」および「T & D マネープールマザーファンド」を主要投資対象として運用を行いました。作成期を通じて、「エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）」を概ね高位に組入れ、「T & D マネープールマザーファンド」にも投資を行いました。

■ エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）

ポートフォリオは米ドルベースでマイナスの収益率となりました。アルゼンチンの現地通貨建国債の組入れなどがプラスに寄与したものの、アンゴラやドミニカ共和国の米ドル建国債の組入れなどがマイナスに作用しました。

当作成期の主な投資行動では、コロンビアやインドネシアの米ドル建国債の一部売却などを実施しました。一方で、アンゴラの米ドル建国債の新規購入や、パナマの米ドル建国債の追加購入などを行いました。

作成期末時点のポートフォリオにおいては、ロシアやメキシコ、ドミニカ共和国、ウクライナ、パナマなどが組入上位国となりました。

■ T & D マネープールマザーファンド

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、作成期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

分配金

1 万口当たりの分配金（税込み）は、利子・配当等収益を中心に分配を行う方針のもと、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第69期から第74期まで各50円とさせていただきました。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

（単位：円・％、1 万口当たり・税引前）

項目	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期
	2019年11月12日 ～2019年12月10日	2019年12月11日 ～2020年1月10日	2020年1月11日 ～2020年2月10日	2020年2月11日 ～2020年3月10日	2020年3月11日 ～2020年4月10日	2020年4月11日 ～2020年5月11日
当期分配金	50	50	50	50	50	50
（対基準価額比率）	0.554	0.540	0.535	0.595	0.631	0.634
当期の収益	48	50	5	50	50	49
当期の収益以外	1	—	44	—	—	0
翌期繰越分配対象額	2,994	3,006	2,962	2,963	2,963	2,963

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

■ 当ファンド

「エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）」および「T & D マネープールマザーファンド」を主要投資対象として運用を行います。

■ エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）

新興国経済は、世界的な感染症拡大の影響による一時的な落ち込みはあるものの、長期的な基調としては緩やかな成長が持続する見通しです。中国の経済対策や、主要先進国の金融緩和政策の長期化観測がそうした見方を支えています。加えて、中長期的なファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）の改善もエマージング債券市場を支える見通しです。ただし、米中の通商関係などにおける対立や新型コロナウイルス感染症拡大の影響次第では世界経済の先行き不透明感が強まり、エマージング債券市場は不安定な状況が再燃する可能性もあります。また、主要新興国の経済金融政策、米金利と米ドル、中国人民元の動向、中東情勢、原油を含むコモディティ価格の変動なども市場のボラティリティ（変動性）を上昇させる要因として注意が必要です。こうした投資環境下、個別国の政治・財政要因も注視しながら、ファンダメンタルズ重視の長期投資を推進していく方針です。

■ T & D マネープールマザーファンド

日本経済は、当面、国内外における新型コロナウイルスの感染拡大の影響から厳しい状態が続くとみられます。また、インフレ率についても、感染症の拡大や原油価格の下落などの影響を受けて弱含むとみられます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内金利は低位で推移すると予想します。

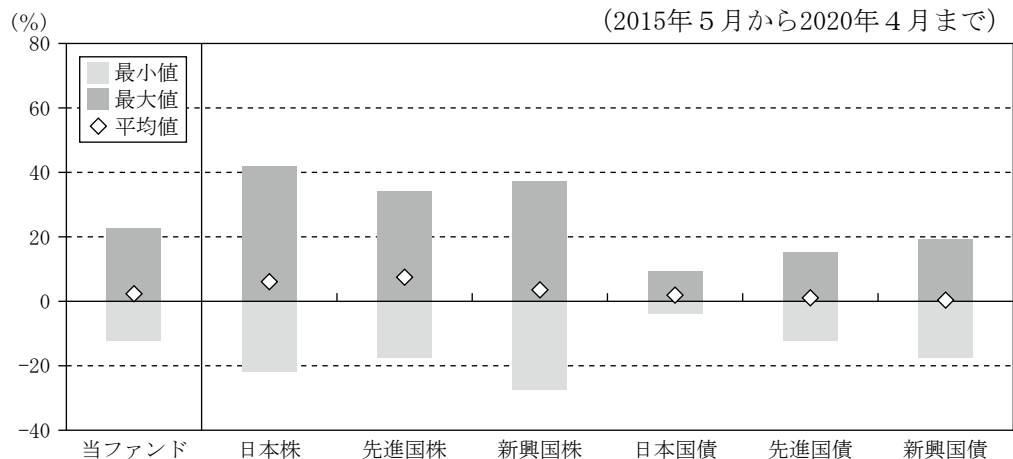
相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

当 該 投 資 信 託 の 概 要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券	
信 託 期 間	2014年2月7日から2024年11月11日まで	
運 用 方 針	高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。	
主 要 運 用 対 象	円建の外国投資信託である「エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）」および親投資信託である「T&Dマネープールマザーファンド」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。	
	エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）	米ドル建のエマージング債券を主要投資対象とし、インカムゲインの確保に加え、中長期的なキャピタルゲインの獲得を目指します。米ドル建資産に対して、原則として為替ヘッジは行いません。
	T&Dマネープールマザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組 入 制 限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への直接投資は行いません。 株式への直接投資は行いません。	
	エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）	有価証券の空売りは行いません。 現地通貨建エマージング債券への投資は、信託財産の20%程度の範囲内とします。この場合には、原則として当該現地通貨売り、米ドル買いの為替取引を行います。
	T&Dマネープールマザーファンド	外貨建資産への投資は行いません。 株式への投資は行いません。
分 配 方 針	分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益を中心に安定分配（注）を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては、売買益（評価益を含みます。）が中心となる場合や安定分配とならない場合があります。また、5月および11月の決算時には、基準価額水準等を勘案し、上記安定分配相当額のほか、分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。 （注）「原則として、利子・配当等収益を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。	

【 参 考 情 報 】

■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	2.4	6.1	7.5	3.5	1.9	1.1	0.4
最大値	22.6	41.9	34.1	37.2	9.3	15.3	19.3
最小値	△12.3	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4

(注) 上記は、2015年5月から2020年4月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) 当ファンドおよび代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 騰落率は直近月末から60ヵ月遡って算出した結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

○各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

※詳細は後述の「指数に関して」をご参照ください。

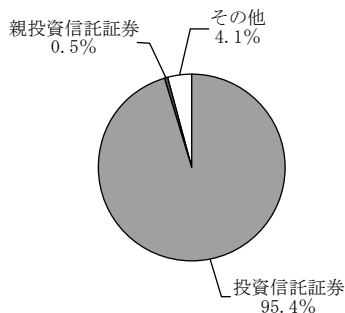
当該投資信託のデータ

当該ファンドの組入資産の内容

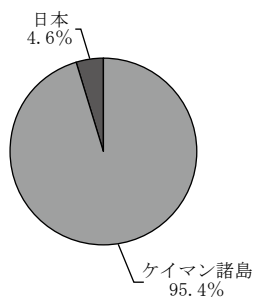
■ 組入（上位）ファンド（銘柄）

銘柄名	第74期末
	2020年5月11日
	比率
エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）	95.4%
T&Dマネープールマザーファンド	0.5
その他	4.1

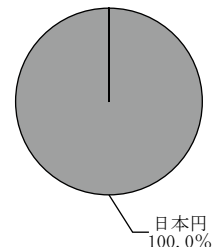
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入（上位）ファンド（銘柄）および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

純資産等

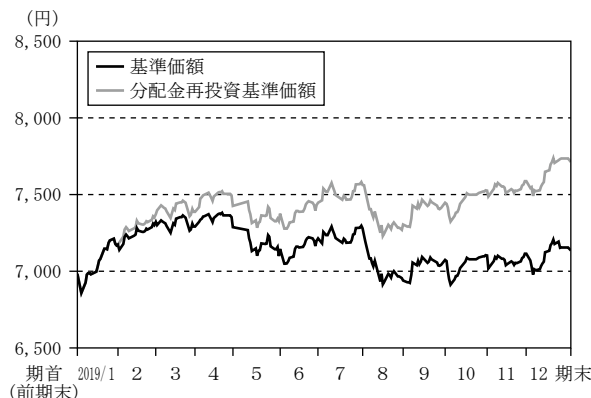
項目	第69期末	第70期末	第71期末	第72期末	第73期末	第74期末
	2019年12月10日	2020年1月10日	2020年2月10日	2020年3月10日	2020年4月10日	2020年5月11日
純資産総額	1,870,524,382円	1,515,350,582円	1,513,741,869円	1,365,298,939円	1,278,499,648円	1,281,129,175円
受益権総口数	2,085,408,179口	1,645,321,417口	1,628,175,677口	1,635,060,506口	1,623,036,530口	1,634,394,114口
1万口当たり基準価額	8,970円	9,210円	9,297円	8,350円	7,877円	7,839円

(注) 当作成期間（第69期～第74期）中における追加設定元本額は264,272,232円、同解約元本額は627,803,389円です。

組入上位ファンドの概要

エマージング・マーケット・デット・ファンド・クラスUSD（毎月分配型）（2019年1月1日から2019年12月31日まで）

■ 基準価額の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、期首（2018年12月31日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

以下はエマージング・マーケット・デット・ファンドの状況です。

■ 上位10銘柄

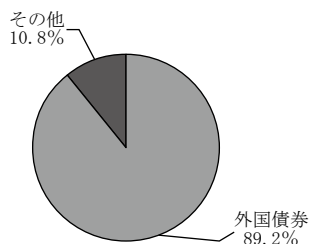
（組入銘柄数：217銘柄）

銘柄名	国	通貨	比率
Gabon Government Bond	ガボン	アメリカ・ドル	1.7%
Peru Government Bond	ペルー	アメリカ・ドル	1.7%
Jordan Government Bond	ヨルダン	アメリカ・ドル	1.6%
Poland Government Bond	ポーランド	アメリカ・ドル	1.5%
Russian Foreign Bond - Eurobond	ロシア	アメリカ・ドル	1.5%
Cameroon Government Bond	カメルーン	アメリカ・ドル	1.4%
Pakistan Government Bond	パキスタン	アメリカ・ドル	1.3%
Kazakhstan Government Bond	カザフスタン	アメリカ・ドル	1.3%
Ethiopia Government Bond	エチオピア	アメリカ・ドル	1.3%
Panama Government Bond	パナマ	アメリカ・ドル	1.2%

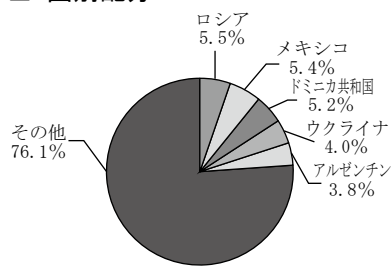
■ 1口当たりの費用明細

1口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示することができません。

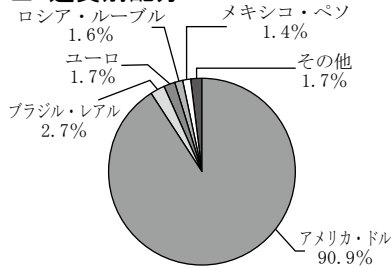
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 組入銘柄および各配分のデータは直近の決算日現在のものです。日付は現地基準です。

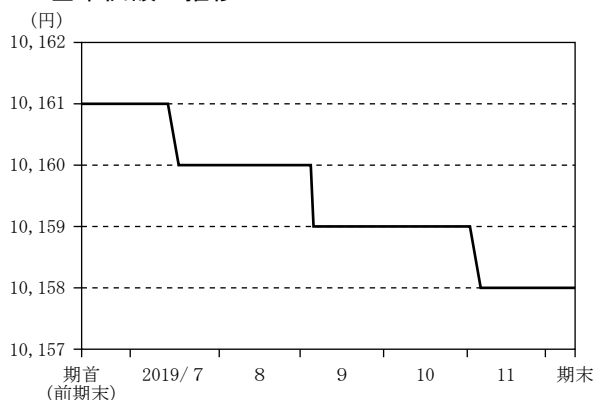
(注) 組入銘柄および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の比率です。

(注) 組入銘柄および各配分の比率はJ Pモルガン証券株式会社より入手したデータをもとに作成しております。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

T & Dマネープールマザーファンド（2019年6月11日から2019年12月10日まで）

■ 基準価額の推移



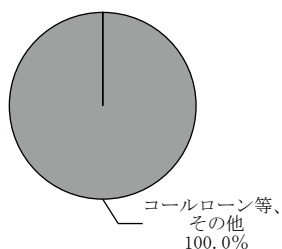
■ 組入銘柄

当期末における組入れはありません。

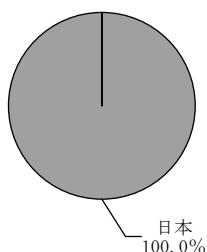
■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	2019/6/11～2019/12/10	
	金額	比率
平均基準価額	10,159円	
その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

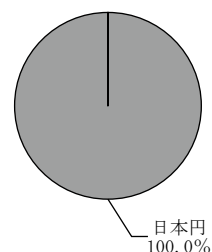
■ 資産別配分



■ 国別配分



■ 通貨別配分



(注) 各配分のデータは直近の決算日現在のものです。

(注) 各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 1万口当たりの費用明細は直近の決算期のものです。その他費用のその他は、金銭信託に係る手数料です。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

指数に関して

○「投資環境」に用いた指数について

J PモルガンEMB I グローバル・ディバーシファイド

指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJ Pモルガン社に帰属しております。J Pモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。J Pモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

○「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権とその他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

MSC I コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSC I コクサイ・インデックスはMSC Iが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSC Iに帰属します。

MSC I エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSC I エマージング・マーケット・インデックスは、MSC Iが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSC Iに帰属します。

NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産とその他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

J PモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J PモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、J Pモルガン社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ Pモルガン社に帰属します。



T&D保険グループ